



“いま、和賢心のとき”

フォーラムたより

2022

10月号

No.60

第32回 首都圏布教御礼祈願祭オンラインで奉行

第32回首都圏布教御礼祈願祭が、6月11日(土)午後1時半から金光教センタービルを会場に仕えられ、その様子がYouTubeでライブ配信されました。主催は金光教首都圏フォーラム。

首都圏布教御礼祈願祭は首都圏布教100年の年1988(昭和63)年より、コロナ禍等諸事情により2回程執行出来ない年を除いては、ほぼ毎年教団独立記念祭の前日にお仕えされていて、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様、そして首都圏布教に尽力された功労者のご霊神に、今日までの首都圏布教の御礼

と、ここからの布教展開を祈願する首都圏においては大切な祭典です。現フォーラムメンバーとなった2年前の2020(令和2)年は、コロナ感染が広がり始めたこともあり、止む無く中止となりましたが、昨年より会場への参拝を無くし、ライブ配信にて遙拝をしてもらう形式を導入し、今年もその形式をとった祭典となりました。

祭典に先立ち、首都圏布教のあゆみをたどる映像「あつまの道のいしすゑ」が上映され、引き続き祭主山田信二先生(横浜西教会・首都圏フォーラム議長)、祭員鈴木寿子先生

(月島教会・東京都教会連合会)の2名によって祭典が仕えられました。祭典後、今年40年の褒賞を受けられる松本光明先生(浦和教会長・教団会議長)によって、「時代へのお役目」という講題で教話が行われました(教話の要旨は次ページに掲載)。

教話に引き続き今年40年の受褒教師と新任教師の紹介が行われ、最後に「新型コロナウイルス終息祈願詞」が奉唱され、首都圏布教賛歌「いま日のぼる」が流れる中、今年も首都圏布教祈願祭は終了しました。

(副議長・鈴木一嘉)

教祖140年

首都圏参拝団に

ご参加を

1883(明治16)年に教祖生神金光大神様がお国替えになり、来年で140年になります。

首都圏フォーラムでは、このような記念の年には団体参拝を行っており、来年も10月に「首都圏団参」の運行が決定しております。

久しぶりの首都圏勢参拝です。ぜひ、誘い合わせでご参加ください。詳細は、決定次第、ご案内致します。共々にこの記念のお年柄を喜びをもって迎えましょう。

教話「時代へのお役目」(首都圏布教御礼祈願祭)

講師 金光教浦和教会長・金光教教団会議長 松本光明先生



松本光明先生

お道の信奉者である私たちが、この時代に、社会、世界に対して、どんなお役目があるのか。

今から164年前の1859年に、教祖生神金光大神様は、天地の親神様のご命を受け、世の難儀な人々を救い助け、神さまと人間との回路を再び結びなおすために、お取次の御用を始められた。ではなぜ、あの時代に神様は教祖さまを私たち人間の許に差し向けられたのか？既に世界には様々な宗教があったのに。

日本は当時、江戸時代の末で、明治維新という日本の近代化が始まろうとしていた。近代化とは、科学技術の急速な発展と産業革命によって、これまでの人や牛馬の力から、石炭や石油、ガス、電気といったエネルギーで、これまでとは桁の違う巨大な力で世界を動かせるようになること。こ

の大きな変化は、人の心のあり方も変えていった。

世の中の様々な「進歩、進化」はたとえば、①より多くの病気を治して人々に健康と長寿を与え、②より多くの食料が生産できる ようになって飢える人々を減らし、③より多くの子供たちに教育の機会を与えて社会のさらなる進歩を促した。これらは良いことだ。けれども、そういう人間の力の増大は、私たちを「傲慢」にした。

教祖さまは「人代と申し、わが力で何事もやり。今般、神が知らしてやること、そむく者あり。」との神様からのお知らせを記しておられる。近代化によって人々の間に「自分たちの力で何でも出comingてしまう」という勘違いが広がってきたが、このお知らせは「このままだと人類は今まで以上の

難儀に出遭う。心のあり方を改めよ！」との神様からの警告なのだ。

私たちの暮らしのすべてに神さまのお働きが詰まっているのに、そのことを忘れ、悪いことは「悪神が人間の暮らしを邪魔している」と逆恨みさえしてしまう人間。それが、日本の近代化、人代への動きを通していつそうに神の恩を忘れ、天地に無礼を働いている。

神さまは、人間というものがあると予測しておられたのだ。一六〇年以上前に。それで教祖さまがこの日本に差し向けられた。そして一六四年後の今、日本も世界も神さまの予測通り、たいへんなことになっている。たとえば、①お金が人を支配する時代になっている。②人間が作った仕組み(シ

ステム)に人間が支配されてしまっている。③能力が人の価値を決めるといふ価値観が、新しい差別と人間疎外を生み出して。

私たちの究極の願いはなにか？①私たちは幸せになりたい。②神様も子供である私たちに幸せになってもらいたいと願っておられる。だから私たち信仰を持つものは、今の世界のありようが、私たちの幸せにとって、良いあり方になっているかどうかを見極める目を持つべきだ。私たちはご信心を通して、神様の眼で、世間とは違う大きな深い目線で、世界を見つめ、神さまの大きく、広やかな御心で、身近なところから少しずつ違う風を送り出していききたい。

首都圏各連合会 活動報告

茨城・栃木教会連合会

3年ぶりの

教師信徒合同研修会

一昨年(令和2年1月)の総会以降、ずっとオンライン方式での会合が続いていたが、3年ぶりとなる教師・信徒合同研修会を6月18日(土)、栃木県小山市の生涯学習センターで開催することができた。従来は午前中から昼食を挟み午後まで時間を取って、講習と懇談を執り行なうのであるが、今回はコロナ感染予防対策として時間を短縮かつ飲食を伴わない形式とし、午前中のみに凝縮したプログラム下で実施された。

参加者14名はマスク越しに「しばらく、元気がいい」と声を掛け合い、瞳を輝かせて会に臨んだ。講師である大木光雄先生(結城教会長)より「関係性の回復」という課題のもと、「人口減少や家・家族の在り方の変

化といった社会構造の変化によって個人化・孤独化がすすんだ現代であればこそ、信仰に基づき神様を通じて人と人との関係を作り上げていくことが求められている」との内容で約一時間のお話をいただき、質疑応答・懇談、写真撮影を経て閉会した。あつという間の二時間で、制約の多い中での会合ではあったが、時間と場所を共有してこそ得られるものがあることを、改めて強く感じた研修会であった。

群馬・埼玉教会連合会

「女性の活躍」を

テーマに研修

群馬・埼玉教会連合会では8月23日、「女性の活躍する教会・連合会」をテーマに茨城・栃木教会連合会と合同で教師研修会を開催し、11名が

参加しました。宮田恵子師(東京都本所教会)と小笠原純子氏(埼玉県春日部教会)の発題を受けて、相互懇談が行われました。

宮田師は、「人助けをするなら積極的に」との母からの教えや、子育てと教会御用の両立で悩んでいた頃に、本所布教百年祭に向けて取り組んだことなどを紹介しました。そして、現在フォーラムの御用を通して、先生方の生の声に大いに刺激と受けていることから、女性教師が積極的に参加できる場作りが必要ではないかと話しました。



小笠原氏は、本教に初めてご縁をいただいたと感じたこと、総てが初めての経験の中、祈りを持つことでのゆとりと、様々な場面でお練り合わせを頂いてきたことを話した上で連合会の女性信奉者の活動

を振り返り、共生・共存・共栄といった金光教の信心のもと、周りの理解と協力があり活躍できることは素晴らしい事と話しました。

千葉県教会連合会

DVDで信心を学ぶ

6月5日午後1時から千葉教会において、第50回千葉県信徒会連合会研修会が21人の出席で開催されました。



新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となりましたが、出席された皆様は、

再会を喜び無事を確かめ合っておられました。

今開催において、講師の先生をお呼びする予定でしたが、現在の社会

状況に鑑み感染リスクを減らす為、プロジェクトにより、大分県 日田 教会長・堀尾光俊師の「めざめ 気づきそして改まり」という講話の録画DVDを拝見させて頂きました。

この録画は教誨師の会合でお話しされたのですが、刑務所でのやりとりをその場で見ているかのようでした。受刑者に話をされている中で、その方々との関わりに気づかされ、ご自身の心の中で葛藤された事、そして神様のお働きを頂いていかれた出来事を、鮮明に話されました。「教師でありながら」と反省された事など、皆さん真剣に最後まで見させて頂き、聞かせて頂きました。

また、先生の長男・長女が、御本部参拝の帰路に、居眠り運転による事故を起こしてしまい、車は大破したが奇跡的に無事であったというおかげを頂いたが、後に実は自分が助けられたという事に気づかされたお話。江本勝氏（会社経営者・故人）の著書に紹介されている、「ぞんざいな言葉をかける」と「ありがとうという感謝の言葉をかける」とでは、物事の結果が変わるといふ検証を、自分自身でされたことなど、興味深

く聞かせて頂きました。

「良い言葉を発する事」「笑いの場を作る事」は良い結果に結びつく事や、おかげを見抜く事に気付かせて頂く、気づかないと何も始まらないなどの教示を頂きました。

最後に、聞き方の稽古をし、喜びを見つけて日々送らせて頂き、お礼と感謝を申し上げて行く事の大切さをさらに実感させて頂きました。

東京都教会連合会

未信奉者に伝えるために

東京都教会連合会は8月24日、金光教センタービルで教師研修会「未信奉者に金光教の信心をどう伝えるか」を、平阪真太郎師（金光教放送センター所長・東旭教会）を講師に迎えて開催。

講師は、未信奉者に信心を伝える



には、「聞くこと」と「信頼」が大切と

語り、自身が金光教の婚活パーティーで妻と出会ったなれそめを紹介。

「妻の祖母は金光教の熱心な信者だが、両親は宗教嫌い。結婚前、妻から『両親には神様の話をしないで』と言われた。しかし、叔父の事業が倒産し、祖父が保証人であったことから、法人でなかった東旭教会は競売にかけられ、長屋に広前を移すことを余儀なくされた。経済的に困窮したが、次々とおかげをいただき、神様の働きを実感した話を義父母に語った。すると義父が一転して、妻との結婚を認め、参拝されるようになった。信心の基礎知識のない義父母に金光教の信心をどう伝えるか苦労したが、今では一番の理解者となってくれている」などと語った。参加者16名（うちリモート7名）。

神奈川・山梨教会連合会

「信心の継承」を

テーマに女性のつどい

6月12日、「信心の継承」をテーマに、「女性のつどい」を金光教武蔵小杉教会を会場に開催しました。

3人の青壮年信奉者が、信心をす



るようになった経緯や金光教の魅力を発表しました。

「私は大学生の時に神様に心を向け難儀を救って頂いた。家族などが信心の考え方や感じ方を常に話している中で、いつでも神様に向かえる土壌を作っておくことが大切だと思う」「引越すたびに、母に連れられてその地の教会に参拝し、少年少女会の活動に参加した。教会の行事や活動に関わることで、自然に信心が身に付いていった」「金光教の信心に触れ、つらい状況の中でも出来ることを一つひとつやっていけば幸せを感じられると気がついた。また、他者と比較しないこと、世間的な評価や一つの評価軸で測らず、出来たことを褒め、出来なかったことを反省する、そういうシンプルな見方を身につけたい」など若い世代の話から、参加者は多くを学びました。（44名参加）